

## ネギの全量基肥体系調査

ネギは基肥を施肥した後、追肥を行うのが一般的な栽培方法であり、追肥の作業時間は10a当たり2.4時間となっている（主要作目の技術・経営指標 平成27年9月 青森県農林水産部より）。また、作業時間に加えて、ほ場への移動時間もあることから、追肥作業を省くことで労働時間の軽減に繋がる。

一部の生産者はネギの専用肥料を施肥し、基肥のみで栽培し出荷しているが、収量や品質についてのデータは不明である。よって、ネギの専用肥料を用いた栽培と通常栽培の収量調査を実施し、今後の栽培普及の資料とする。

### 1 調査内容

- (1) 栽培環境：露地ほ場
- (2) 供試品種：森の奏で（トキタ種苗）
- (3) 耕種概要
  - ① 播種日：4月13日（264穴チェーンパーポット育苗、1穴2粒播種）
  - ② 定植日：6月5日
  - ③ 栽植様式：条間120cm、株間5cm  
栽植本数 16,600本/10a

#### ④ 施肥量

区分	施肥量（成分量 kg/10a 当たり）			
	肥料名	N	P	K
専用肥料区	スゴねぎ長者	17.50	17.50	13.93
	けい酸加里	0	0	3.4
	計	17.50	17.50	17.33
対照区	CDUタマゴ化成 S555	6.07	6.07	6.07
	有機アグレット 816	1.33	0.16	1.00
	エコロング 413（100）	3.67	2.88	3.40
	畑追肥 S646（4回合計）	10.29	2.57	10.29
	計	21.36	11.68	20.76

※基準施肥量（青森県やさい栽培の手引きより）

全量基肥（専用肥料区）N：P：K=17.5～20：15.7～17.9：17.5～20/10a（成分量）

普通栽培（対照区）N：P：K=21～25：9～13：21～25/10a（成分量）

※施肥量は、土壌分析結果を基に算出した。また、上記肥料のほか、苦土石灰を散布している。

- ⑤ 調査方法：畝の中心部分の5mを調査対象として収穫し、収量調査を実施

## 2 調査結果

### (1) 生育状況及び病害虫防除状況

生育状況については、定植から8月下旬までの期間について、専用肥料区及び対照区の生育は良好であった。対照区は8月までに3回（7月26日、8月12日、8月26日）追肥を実施した。

また、土寄せは専用肥料区及び対照区とも、対照区の追肥を行った同日に実施した。

9月上旬では専用肥料区の葉の色が薄くなる傾向がみられ、対照区の4回目の追肥の時点（9月13日）では葉の色から肥料切れが顕著に見られた。

次に、病害虫防除について、薬剤散布状況を表1に示した。

8月中旬まで薬剤散布による病気の予防や、害虫の初期発生時点での殺虫剤散布により、作物の生育に影響を与える被害は無かった。しかし、8月下旬にベと病の予防剤を散布した後、曇天及び降雨が続いたことで、ベと病及びさび病が発生したことから9月中旬に治療剤を散布した。特に肥料切れがみられた専用肥料区では、対照区よりベと病やさび病が多く発病した。

表1 農薬散布状況

散布月	散布回数（農薬成分名）	防除対象病害虫
6月	殺菌1回（TPN 1回）	ベと病
7月	殺菌2回（マンゼブ 2回）	ベと病
	殺虫2回（シペルメトリン 1回、メソミル 1回）	ヨトウムシ、アザミウマ
8月	殺菌2回（TPN 1回、ジメトモルフ及び塩基性塩化銅 1回）	ベと病
	殺虫2回（ピリダリル 1回、シペルメトリン 1回）	ネギコガ、アザミウマ
9月	殺菌2回（アゾキシストロピン 1回、ホセチル 1回）	ベと病、さび病
	殺虫2回（クロルフェナピル 1回、クロラントラニプロール 1回）	ヨトウムシ
10月	殺菌1回（アゾキシストロピン 1回）	ベと病

図1 収穫当日の状況



(2) 収量調査

収量調査については、表2に収穫本数及び出荷本数を 10a 換算で示した。専用肥料区は収穫本数及び出荷本数においては対照区より劣る結果となった。

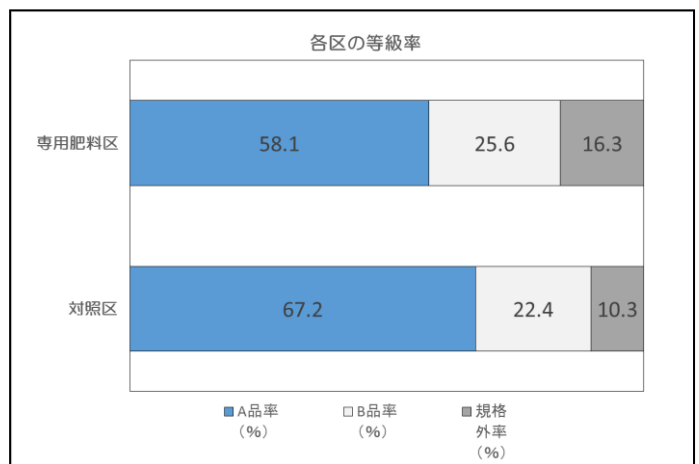
図2では、各区の等級率を示した。専用肥料区は対照区と比べ A 品率が低く、B 品率及び規格外率が高かった。

図3では収穫本数に係る等級及びサイズの本数を 10a 換算で示した。出荷できた本数を見ると、専用肥料区が対照区より 2L、M 及び S は少なく、L が多かった。

表2 収穫本数、出荷本数及び出荷率（10a 当たり）  
（10月11日収穫）

区分	収穫本数	収穫本数のうち、 出荷本数	出荷率
専用肥料区	13,280	11,122	83.8%
対照区	14,442	12,948	89.7%

図2 各区の等級率



※等級については「ねぎ品質及び大小の基準の概要」を参照。  
また、端数処理により、合計が合わない場合がある。

ねぎ品質及び大小の基準の概要

(1) 品質基準

① A 品

- ・形状、色沢良好で首しまりがよく、病虫害や傷害の無いもの
- ・軟白が 30cm 以上で曲がり軽微なもの
- ・三葉以上であること、軟白長が 30~40cm

② B 品

- ・A 品に次ぐもので、病虫害や傷害が軽微なもの
- ・二葉以上であり、軟白長が 25cm~40cm

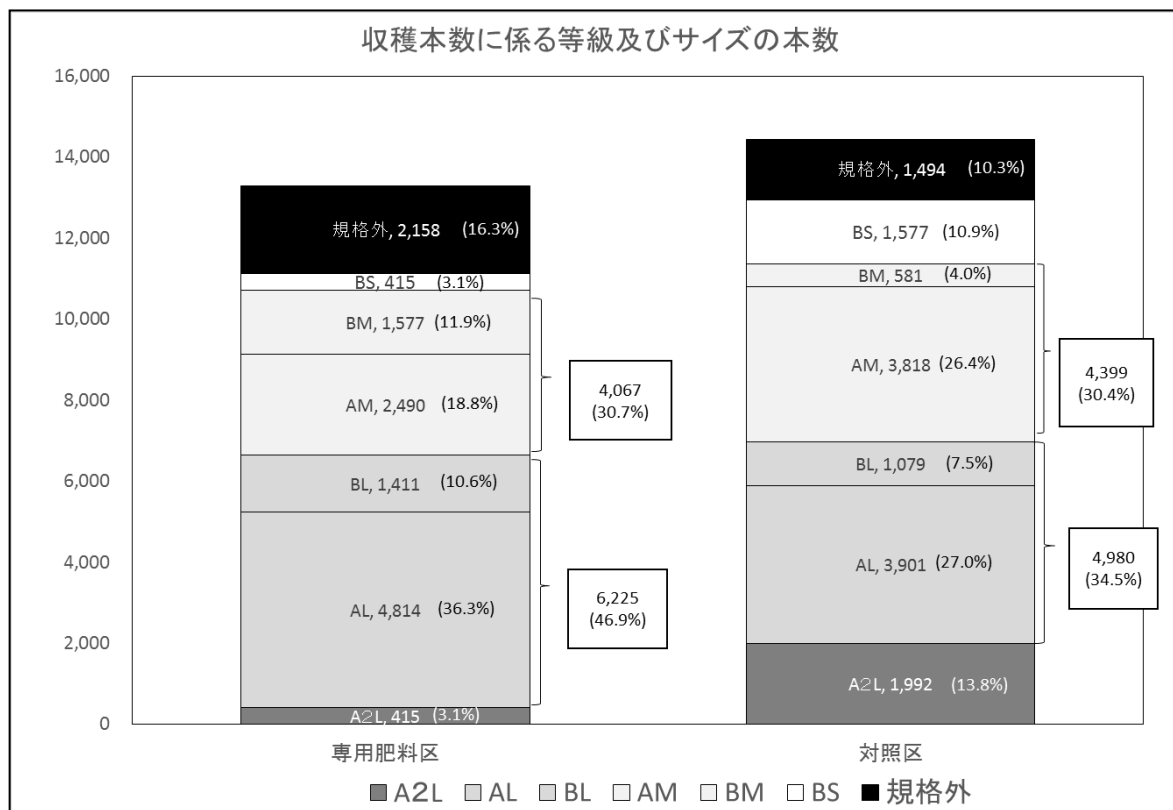
③ 規格外

- ・B 品以下や、S サイズ未満であるもの、軟腐病が発生していたもの

(2) 大小基準（軟白中央部の太さ）

- ・ 2L…2.2~2.7cm
- ・ L…1.8~2.1cm
- ・ M…1.4~1.7cm
- ・ S…1.0~1.3cm

図3 収穫本数に係る等級及びサイズの本数（10a 当たり）



※ ( ) 内は割合を示す。また、端数処理により合計が合わない場合がある。

### 3 まとめ

今年度の調査から、専用肥料区は対照区より出荷本数及びA品率が劣っており、出荷量が減少する可能性があることが示された。出荷可能本数及び等級率が劣った原因としては、生育後半の肥料切れと、肥料切れに起因する病害によるものと考えられる。

よって、次年度は、今年度使用した専用肥料のほかに、専用肥料の施肥後、最後の土寄せ時に追肥を加えた場合や、異なる専用肥料を用いた場合の収量に係る調査の実施を検討する。

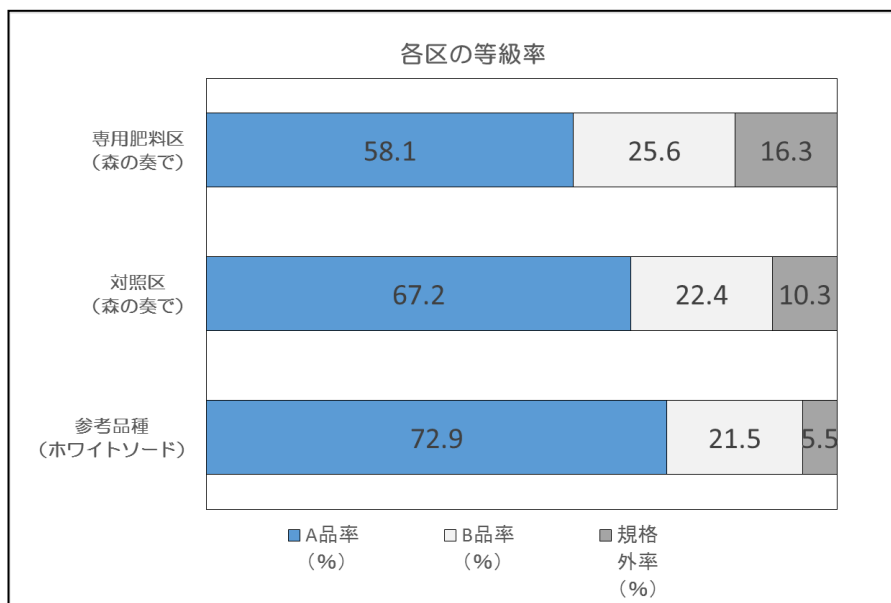
#### 【参考】

本調査の他に、今年度はホワイトソード（タキイ種苗）を対照区と同様の肥料設計で栽培した。森の奏でより良好な結果だったことから、参考データとして紹介する。

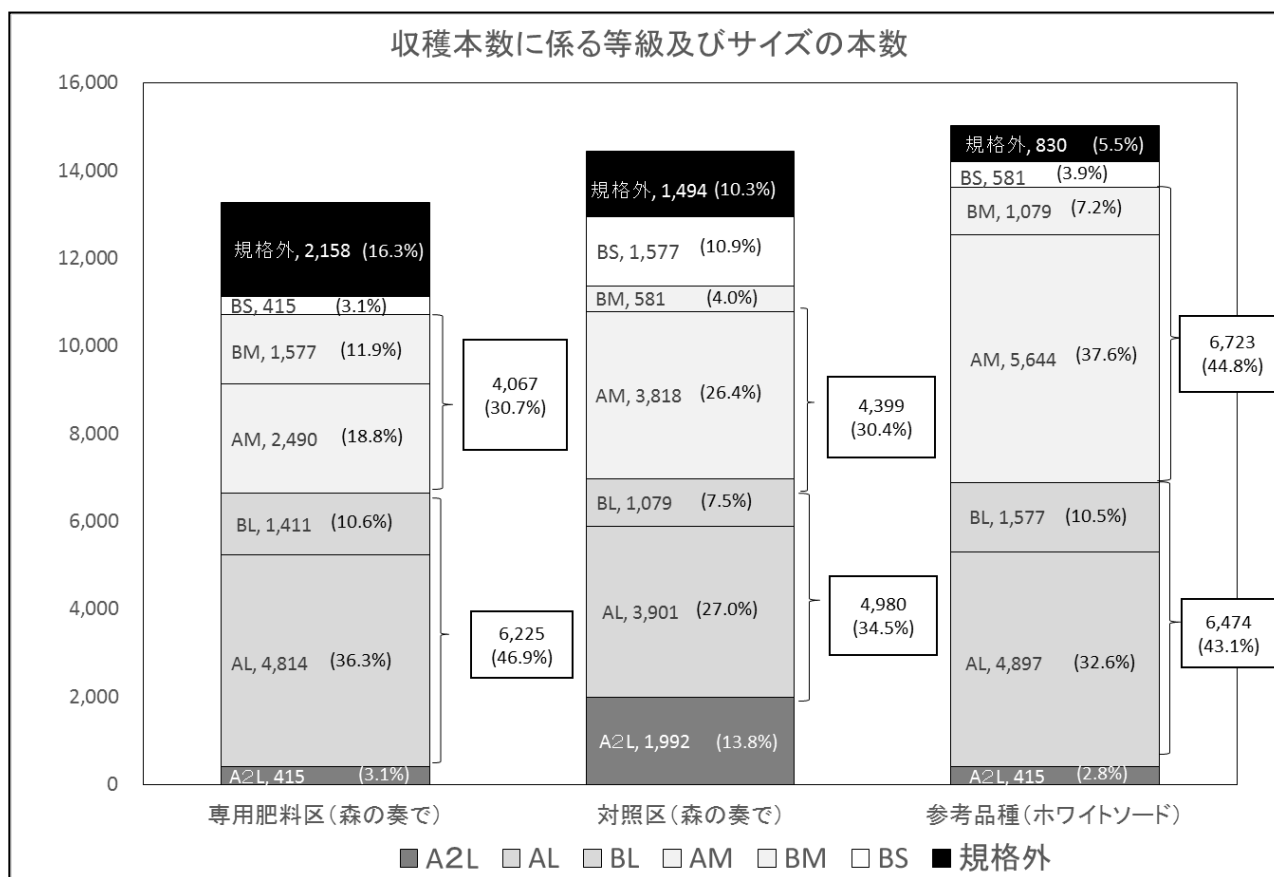
参考表1 収穫本数、出荷本数及び出荷率（10a 当たり）

区分	収穫日	収穫本数	収穫本数のうち、 出荷本数	出荷率
専用肥料区（森の奏で）	10月11日	13,280	11,122	83.8%
対照区（森の奏で）	10月11日	14,442	12,948	89.7%
参考品種（ホワイトソード）	10月22日	15,023	14,193	94.5%

参考図1 各区の等級率



参考図2 収穫本数に係る等級及びサイズの本数 (10aあたり)



※ ( ) 内は割合を示す。また、端数処理により、合計が合わない場合がある。